

Japan College Sport Research Project -NCAA Convention 2018 におけるセミナー

松元 剛¹⁾, 松尾博一²⁾, 山田幸雄¹⁾

The Seminar of Japan College Sport Research Project In NCAA Convention 2018

Tsuyoshi MATSUMOTO¹⁾, Hirokazu MATSUO²⁾, Yukio YAMADA¹⁾

I. はじめに

現在国内において大学スポーツの振興について積極的な議論がなされており、2016年に閣議決定された日本再興戦略2016においては、「日本の大学等が持つスポーツ資源の潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）をいかすとともに、適切な組織運営管理や健全な大学スポーツビジネスの確立等を目指す大学横断かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の在り方について、文部科学省・スポーツ庁を中心に議論を進め、本年度中に設置に向けた方向性について結論を得る。」³⁾といったことが述べられている。なお日本版NCAAとは、米国における大学スポーツの統括組織「National Collegiate Athletic Association（以下、「NCAA」）」に倣う組織として考えられる。

また、経済産業省とスポーツ庁によって行われたスポーツ未来開拓会議の中間報告⁹⁾においては、経済の観点からも大学を中心としたア

マチュアスポーツの産業化に大きな期待が寄せられている。この日本版NCAAについては、「大学スポーツの振興に関する検討会議」²⁾における中心的な議題として、そのあり方について議論が進められてきた。その成果として2017年3月に、2016年4月より5回に渡って議論されてきた内容の最終報告が発表されている。そこでは、日本国内において大学の持つスポーツ資源の潜在力が十分に発揮されていないことなどに触れ、「大学スポーツ資源の潜在力を発揮するための突破口として、運動部活動を含めて全学的にスポーツ分野に取り組む大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の創設に向けた議論を進める必要がある。」として、日本版NCAA創設に向けた方向性が示された。

これらの政府による報告から、これまで議論されてきた日本版NCAAは米国における大学スポーツの統括団体であるNCAAを参考として設立が検討されていることは疑う余地がな

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sports Sciences, University of Tsukuba

2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科

Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

い。しかし、国内においてNCAAに関する資料が不足していることから、その背景や課題について詳細に把握しないままに議論されている可能性がある。

そこで本稿では、米国インディアナ州インディアナポリスにて2018年1月16日-18日の3日間に渡って企画実施を行った「Japan College Sport Research Project -NCAA Convention 2018におけるセミナー」について報告を行い、日本版NCAAに関連した資料としての共有化を図ることを目的としたい。

II. Japan College Sport Research Project について

本プロジェクトは、筑波大学、テンプル大学、株式会社ドーム間の共同研究プロジェクト「Japan College Sport Research Project」として、2016年より開始された¹⁰⁾。この研究プロジェクトの主な目的は、日本および米国における、大学スポーツ運営の現状を把握し、日本版大学アスレチックデパートメントのモデル案を提唱することにある¹⁾。2017年3月29日に、このプロジェクトに関する報告会「米国大学における学生競技者に対する教育マネジメントの現状分析～日本版大学体育局（AD）モデルの構築に向けて～」がアメリカンセンターJAPANにて執り行われ、日本の大学スポーツの現状や課題、米国における大学スポーツがもたらす利益や組織構造、財政などについて報告を行った¹⁾。またテンプル大学のJeremy Jordan准教授による日本版大学アスレチックデパートメントのモデル案の提案が行われるとともに、日本における今後の大学スポーツのあり方についてプロジェクトメンバーによるパネルディスカッションを実施した。なおアスレチックデパートメントとは、アメリカの大学で設置されている運動部に対する会計、マーケティング、広報、施設管理、学生支援といった業務全般をマネジメントする部局¹⁰⁾である。

III. NCAA について

NCAAは、1000校を超える大学がメンバーとして加盟しており、毎年約90の大学全米選手権の開催等を行っている⁵⁾。その基本的な目的は、「大学におけるスポーツ活動を教育プログラムの不可欠な部分として、また競技者を学生組織の一部として保ち、そして大学スポーツとプロスポーツとの明確な境界線を保持することである。」⁴⁾としている。その目的を果たすためにNCAAは入学、奨学金、競技への参加資格、選手の勧誘などの基本的なスポーツ活動に伴う問題に関する規則を制定し、一方、加盟大学はこの規則を適用し履行する義務がある⁴⁾という関係にある。なおNCAAの活動は、以下の9つにまとめることができる⁴⁾。

1. 学生アスリートのために大学スポーツのプログラムを活性化させると共に改善し、教育的リーダーシップ、競技成績、スポーツ活動への参加を促進、開発すること。
2. NCAAの憲章、及び細則に準拠した全ての大学スポーツ活動における大学の自治的な運営と、その活動への責任を持つという原則を維持すること。
3. 加盟大学における、奨学金、スポーツマンシップ、アマチュアリズムの基準に準拠した競技への参加資格に関するルールの適用を促進すること。
4. 大学スポーツを管理するプレー規則を編纂、出版すること。
5. 大学スポーツの結果を記録し、それを保管すること。
6. NCAA主催の地域、及び全国的なスポーツイベントの運営を監督し、そのイベントへの参加基準を制定すること。
7. 全国的な、また国際的なスポーツイベントの推進と運営について他のアマチュア競技団体と連携すること。
8. 大学スポーツの運営に関わる加盟大学に関して一般的な懸念事項について、細則を通

して、もしくは定期総会での決議によって規則を作ること。

9. 大学スポーツについて調査を行い、米国における大学が高いレベルでスポーツプログラムを維持できるような基準を確立すること。

IV. NCAA Convention 2018におけるセミナーについて

1. セミナーの概要

「Japan College Sport Research Project – NCAA Convention 2018」には、「テンプル大学×筑波大学×株式会社ドーム共同研究チーム」によって主催され、2018年1月16-18日の3日間に渡って米国インディアナ州インディアナポリスにて行われたセミナーである。このセミナーではNCAAや大学アスレチック部門の運営に関わる各分野の専門家を招き、レクチャーやディスカッション、施設の見学を通してNCAAへの理解を深めた。本セミナーは、2018年1月16-20日にインディアナポリスにて開催された「NCAA Convention 2018」に合わせて実施することで、全米から集まった専門家によるセミナーを可能とした。「NCAA Convention」では、年に一度NCAAに加盟するカンファレンスや大学の代表者が集まり、今後の方針や具体的な施策に関する議論や投票などが行われる。なお本セミナーには、共同研究のプロジェクトメンバー9名に加え、日本より行政、大学、企業関係者13名が参加した。

2. プログラム内容

本セミナーは3日間で構成され、1日目にはプレゼンテーション形式での7つのセッションとNCAAの歴史に関する展示施設である「Hall of Champions」の視察を行った。2日目には、1日目と同様にプレゼンテーション形式での7つのセッションを実施し、加えて日本国内における大学スポーツの現状と今後の展望についてディスカッションを行った。また、3日目には

インディアナポリスに所在する「インディアナ大学－パデュー大学インディアナ校」におけるスポーツ施設の視察を行った。

1 日目

a. NCAAの全米選手権－学生アスリートへの特別な体験の提供

NCAAにおける全米選手権の運営に関するアシスタント・ディレクターを務めるJohn Bugner氏によって、NCAAがどのように学生アスリートの参加する全米選手権の運営を行っているのかが解説された。

b. エリジビリティ（参加資格）センター／参加資格の構築－学生アスリートの教育と必要な要件

学生アスリートがNCAAにおいて競技を行うために必要な参加資格について管理をするエリジビリティセンターにてマネージング・ディレクターを務めるGary DeCastro氏によって、エリジビリティセンターの機能と役割、学生アスリートにおける学業成績の証明、アマチュアリズムなどに触れ、いかにしてNCAAが学生アスリートの競技参加に関する基準を管理しているのかが解説された。

c. コミュニケーション／大学スポーツへの認識

NCAAにおいて広告を用いたブランディングなどを行い、戦略的コミュニケーションに関するマネージング・ディレクターを務めるAmy Dunham氏によって、NCAAに対する認識の調査や、そしてその中のネガティブな認識を改善するために行っているNCAAの広告戦略について解説された。

d. 財政／資金はどこに行くのか

NCAAにて財務、経理に関するマネージング・ディレクターを務めるDavid Lafiosca氏によって、NCAAの組織体系に基づいた収益と支出の内訳、予算の策定プロセスなどについて解説された。

e. エンフォースメント／監視と調査ーエンフォースメントと制裁に関するプロセスの説明

NCAA に加盟する大学や指導者、学生アスリートなどに不正がないか監視や調査を行い、不正があった場合には制裁措置を執り行うエンフォースメントにおいて副プレジデントを務める Jon Duncan 氏によって、NCAA の中で行われる競技を公平かつ公正なものとして保つためのルールやプロセスについて解説された。

f. リサーチ／学業の重要性

NCAA において学生アスリートにおける学業成績や属性に関する統計、大学やカンファレンスのスポーツに関連した財務状況などの調査を統括するマネージング・ディレクターを務める Todd Petr 氏によって、NCAA における調査機

関の役割やデータの活用方法について解説された。

g. 政策・ガバナンス／NCAA のガバナンス

NCAA における法的な対応、政策、ガバナンスの管理に関するマネージング・ディレクターを務める Jackie Campbell 氏によって、NCAA のガバナンスや、それを機能させる委員会の機能について解説された。

Hall of Champions の視察

NCAA の一般業務に関するアシスタント・ディレクターを務める Kelly Dodds 氏のガイドによって、NCAA の歴史に関する展示を行う Hall of Champions の視察を行った。

2 日目

a. 大学におけるスポーツプログラムがもたらす利益

大学がスポーツプログラムを持つことによって得られる利益について、テンプル大学の Daniel Funk 教授とミネソタ大学の井上雄平助教より解説された。また、日本国内の大学がどのような利益を想定してアスレチックデパートメントの設置を進めているのかについてディスカッションを行った。

b. ガバナンスーカンファレンスの役割

Central Athletic Collegiate Conference にてコミッショナーを務める Dan Mara 氏によって、



図1 セミナー会場となったNCAA本部オフィス



図2 1日目のセッションの様子



図3 NCAA創設のきっかけとなったアメリカンフットボール

NCAA の中でカンファレンスが果たす役割や、カンファレンスと大学の関係性について解説された。

c. NCAA の違反に関するプロセス

NCAA における違反に関する委員会運営のマネージング・ディレクターを行う Joel McGormley 氏によって、NCAA の加盟大学と連携した違反発生時のプロセスについて、また委員会の運営方法について解説された。

d. 学業とスポーツー教員の役割

フロリダ大学にてスポーツプログラムに関する教員の代表者 (Faculty Athletics Representative) を務める Mike Sagas 教授によって、大学の教員が学生アスリートに与える影響や関わり方について解説された。

e. Academic and membership Affairs / コンプライアンスの解釈と大学やカンファレンスに提供されるその他の支援的サービス

NCAA の定めた規則の解釈や改定などの支援を行うことで、NCAA の加盟大学が規則を運用する手助けをする Academic and membership Affairs (以下「AMA」と略す) の副プレジデントを務める Dave Schnase 氏によって、AMA の役割や具体的な事例を通した規則の解釈について解説された。

f. アスレチックデパートメントの設置ー大学における機会と課題

テンプル大学の Daniel Funk 教授による進行の下、セミナーに参加した大学関係者を中心と

して、それぞれの大学における現状と今後の展望について議論を交わした。

g. Academic and membership AffairsーディビジョンⅢ

AMA においてアシスタント・ディレクターを務める Joni Williamson 氏によって、NCAA におけるディビジョンⅢの特徴や財務状況、資金調達の方法などについて解説された。

h. コンプライアンスと政策ーカンファレンスと大学の関係

American Athletic Conference にてアソシエイト・コミッショナーを務める Ellen Ferris 氏とテンプル大学にてシニア・アスレチック・ディレクターを務める Kristy Sromovsky 氏の両名にて、NCAA の加盟大学が規則を遵守するために行っている取り組みやカンファレンスとの連携について解説された。

3 日目

「インディアナ大学ーパデュー大学インディアナ校」スポーツ施設の視察

インディアナ州インディアナポリスに所在する「インディアナ大学ーパデュー大学インディアナ校」にて、スポーツチームが利用するトレーニング施設やスタジアム、アリーナなどを視察し、また施設の管理や運営方法について質疑を行い、米国の大学におけるスポーツ施設の状況について理解を深めた。

3. まとめ

「Japan College Sport Research Project – NCAA Convention 2018」においては、まず1日目に NCAA の役割や機能、組織構造について理解を深めるセッションを用意した。今回議題となったのは、NCAA の主催する大会の運営方法、学生アスリートが競技に参加するための基準、広告戦略、財務状況、違反の調査や罰則のプロセス、学業成績や幸福度などの調査、組織のガバナンスといった内容であった。その中で、NCAA が組織として、どのように学生アス



図4 2日目のセッションの様子

リートが安全、かつ公平、公正に競技に参加できる環境を提供し、また大学の卒業や卒業後のキャリアを見据えた支援を行っているのか、ということについて理解が深めることができた。また、NCAAの歴史に関する展示を行う「Hall of Champions」の視察を行った際にはNCAAが創立に至った経緯等についても解説を受け、アメリカンフットボール競技における死亡事故の多発によって、競技ルールの改正や競技の安全な運営や管理を保証するための組織として創立されたという背景について学んだ。

2日目については、大学スポーツにおける大学とアスレチックデパートメント、カンファレンス、コミュニティ、教員などとの関わりについて理解を深めるセッションを用意した。そこで議題となったのは、大学におけるスポーツが大学やコミュニティに与える利益、カンファレンスを通じたガバナンス、大学で違反があった際の対応、大学スポーツにおける教員の役割、規則を運用する際の支援、所属大学の予算規模や学生数が日本国内の大学と似通うディビジョンⅢについて、カンファレンスと連携した規則の遵守といった内容であった。その中では、大学がスポーツプログラムを運営する上で欠かすことのできない学生アスリート、一般学生、教員、地域コミュニティなどのステイク・ホルダーに対して、どのような利益を与えられる可能性を秘めているのか、また所属するカンファレン

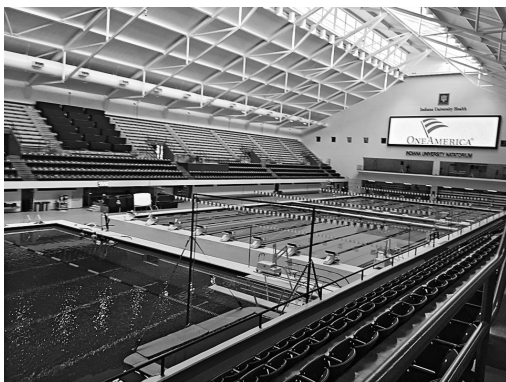


図5 IUPUIの水泳チームが使用するプール施設

スとの連携によっていかに組織を統率し、規則を遵守し、大学のスポーツプログラムを管理していくのか、ということについて理解を深めることができた。

3日目については、「インディアナ大学ーパデュー大学インディアナ校」にて、スポーツチームが利用するトレーニング施設やスタジアム、アリーナなどを視察し、また施設の管理や運営方法について質疑を行い、米国の大学におけるスポーツ施設の状況について理解を深めた。その中では、自治体や企業などと連携した施設の運用に関するアイデアなどが得られ、日本国内の大学が新たにスポーツ施設を運用する際に有用な知見となった。

V. 総括

本セミナーでは、NCAAやカンファレンス、大学に従事する様々な専門家によるセッションを通して、日本版NCAAや大学のアスレチックデパートメントの開発に有用な知見を学ぶ機会が得られた。1905年に創立され、100年以上の歴史を持つNCAAの組織、機能は多岐にわたり、非常に大きな組織となっている。そのため、その全てを理解し完全に模倣することは難しいと言わざるを得ないが、米国において大学スポーツがもたらす利益や直面する課題について理解を深めることは、今後日本における大学スポーツが社会にもたらす利益や直面する可能性のある課題を予測するために大いに役立つものと考えられる。米国のNCAAやカンファレンス、大学などに従事する大学スポーツの専門家より直接的に情報を取得できる機会が国内では不足していることから、今後も積極的に、日本版NCAAやアスレチックデパートメントの開発に資する情報を継続的に取得し続けることが望まれる。

参考文献

- 1) アメリカンセンター JAPAN (online) : アメリカ大使館協力シンポジウム : 米国

- 大学における学生競技者に対する教育マネジメントの現状分析～日本版大学体育局（AD）モデルの構築に向けて～. <https://americancenterjapan.com/event/201703295035/>.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
- 2) 文部科学省（online）：大学スポーツの振興に関する検討会議 最終とりまとめ－大学スポーツの価値の向上に向けて－. http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 3) 内閣官房日本経済再生総合事務局（online）：日本再興戦略 2016－第 4 次産業革命に向けて－. http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 4) National Collegiate Athletic Association (2017): 2017-18 NCAA Division I manual. National Collegiate Athletic Association, Indianapolis.
 - 5) National Collegiate Athletic Association (online): The Official Site of the NCAA, <http://www.ncaa.org/>.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 6) Smith RK (2000): A brief history of the National Collegiate Athletic Association's role in regulating intercollegiate athletics. *Marquette Sports Law Review*, 11(1): 9-22.
 - 7) スポーツ庁（online）：日本版 NCAA 創設に向けた学参産官連携協議会. http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/29/09/1395349.htm.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 8) スポーツ庁（online）：平成 29 年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学. http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/29/09/_icsFiles/afieldfile/2017/09/14/1395745_001_1.pdf.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 9) スポーツ庁・経済産業省（online）：スポーツ未来開拓会議 中間報告. <http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160614004/20160614004-1.pdf>.（参照日 2018 年 1 月 22 日）
 - 10) 筑波大学（online）：筑波大学アスレチックデパートメント設置準備室. <http://www.tsukuba-athletics.com/>.（参照日 2018 年 1 月 22 日）